

岡山実験動物研究会創立15周年を迎えて

佐藤 勝 紀

岡山実験動物研究会会長

岡山実験動物研究会は、昨年12月に創立15周年を迎えることができました。これもひとえに会員皆様方のご指導、ご支援の賜物と心より厚くお礼を申し上げます。創立15周年を記念して、当研究会の発足会場であったメルパルクOKAYAMA(岡山郵便貯金会館)で創立15周年記念第34回研究会を岡山新技術振興財団との共催で開催致しました。岡山実験動物研究会の創始者のお一人で、現在日本実験動物協会副会長をされている猪貴義先生(岡山大学名誉教授)が「ライフサイエンスの展開と実験動物」の演題で記念講演をされました。我が国の21世紀に向けたライフサイエンスの研究開発の方向、実験動物の重要性や岡山大学在職中に選抜育種によって開発されたアロキサン誘発糖尿病高発症系・低発症系マウスの特性について紹介されました。これらの系統は現在米国ジャクソン研究所のライター教授によって取り上げられ、遺伝解析がなされていることも付け加えられました。猪先生の講演内容に関連して、実験動物、特に疾患モデル動物の開発に取り組まれている国立精神・神経センター神経研究所の菊池建機先生(モデル動物開発部・部長)が「疾患モデル動物の開発とその応用」の演題で特別講演をされました。人間の病気の治療や予防における疾患モデル動物開発の重要性やこれまで開発された、あるいは開発中の各種疾患のモデル動物を紹介され、特にヒトの糖尿病Ⅱ型のモデル動物として注目されているウズラでの最近の研究成果について詳細に話されました。続いて、肝臓移植の権威で、現在癌治療の最前線である遺伝子治療の計画に取り組まれている岡山大学医学部の田中紀章先生(第一外科・教授)が「癌の遺伝子治療」と題して特別講演をされました。岡山大学医学部で現在検討されている遺伝子治療計画や分子生物学的手法による最近の興味ある研究成果について紹介されました。これらの講演を拝聴して、ライフサイエンスの展開、進展に果たす実験動物、動物実験の重要性、役割を改めて認識致しました。なお、これらの講演内容は本誌(3~16頁)の記念講演要旨、特別講演要旨にそれぞれ記載してありますので、ご参照ください。

岡山実験動物研究会の歴史を振り返ってみますと、本研究会は岡山大学の医・歯・薬・農・理・教育学部・教養部、川崎医科大学、ノートルダム清心女子大学、岡山理科大学、(株)林原生物化学研究所、重井医学研究所、その他の研究機関の有志の参加を得て、昭和57年12月7日に発会しました。本研究会は、大学や学部、研究機関の枠を越えて、実験動物と動物実験に関心のある方々の集まりの場として、また実験動物及び動物実験の知識の交流をはかり、あわせてこれら関連領域の進展に寄与することを目的として設立されたものです。この設立に当たって元岡山大学長・大藤眞先生(現吉備国際大学学長)、元重井医学研究所長・妹尾左知丸先生(現名誉所長)から地域における科学の進歩、向上のために大きい貢献を果たしてほしい旨の期待が込められた祝辞が寄せられました。その後、本研究会は、若干の紆余曲折がありましたが、常務理事会が中心となって企画し、会員数の増加、定期的な研究会の開催、研究会報の発行、内容充実などをはかりながら、現在に至っています。

この間、正会員、賛助会員は勿論のこと会員以外の方々からも多くのご指導とご支援をいただき、平成10年7月末までに35回の研究会と外国人講師による2回の臨時・特別講演会の開催、14号の研究会報の発行など、地道な活動を続けてきています。これまでの本研究会の活動経過については本誌36~40頁)に記載しています。

今年7月6日、我が国で世界最初のクローン牛誕生に成功したことが紙面トップで報じられ、ほぼ同時期に親子3世代にわたるクローンマウス作出の研究成果が発表されました。今後も家畜を含めた実験動物の開発、利用と動物実験は広範囲な研究分野で不可欠であり、本研究会はこれからも実験動物、動物実験の知識と情報の交換の場として、また各種の研究の発展に少しでも寄与することができれば幸いと考えています。会員の皆様には今後とも本研究会の維持、発展のためにご指導、ご鞭撻の程よろしくお願ひ申し上げます。